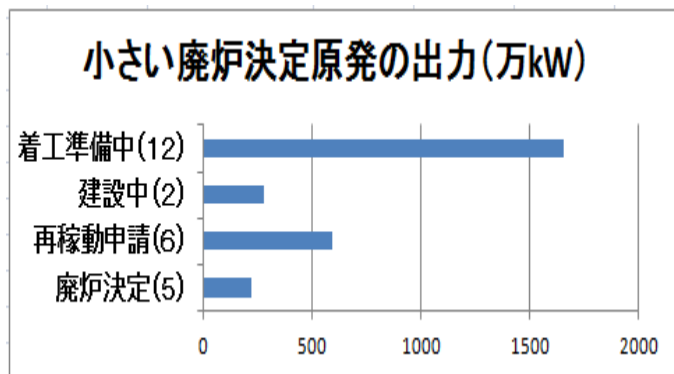


5 原発の廃炉は、原発時代の終わりじゃない 原発大型化、川内「3号機増設」を許すな



▲廃炉原発の出力は、再稼働原発の37%



「3号機増設」計画の再来? (九電計画より) ▲

4つの電力会社が5基の原発の廃炉を決めました。九電も玄海原発1号機を廃炉にします。それは規制委の審査に合格するため、1基2千kmにも及ぶ電気ケーブルの難燃化などに莫大な費用がかかるからです。

その代わりに、6基の新型・巨大原発の再稼働申請があいつぎました。その出力は合計、廃炉決定5原発の2.7倍に上ります。

●政府と九電は、「原発大国」をめざしている

廃炉の動きは、決して原発の時代の「終わりの始まり」を意味しません。大型原発が残ることによって、1つの事故の被害がさらに甚大になります。例えば35年も運転し、老朽化がすすむ大飯1号機は、福島原発1号機の2.6倍の規模です。

しかもその後ろには、建設中の原発が2基、着工準備中の原発12基が控えています。12基は中国、ロシア、インドをしのぎ世界一(11年のデータ)。「原発大国」をめざす政府と電力

会社の路線は、ちっとも変わっていません。ここ薩摩川内市でも、巨大原発、川内原発3号機(大飯1号機級)の建設計画の再燃を心配する必要があるようです。

●薩摩川内市を壊す、原発景気の「麻薬」

昨年春の薩摩川内市・原発特別委で、奇妙な陳情が審議されました。原発の工事のため、労働者は2000人以上になっていました。それでも商工会は儲からないと言い、再稼働を求めたのです。再稼働すると、労働者は3分の1に減るというのに...

この矛盾した陳情の「裏」は、1~2号機が再稼働しなければ、3号機建設が始まらない、ということ。そうすれば5000億円以上の工事費が降ってきて儲かるということ。市の財政も潤うと言うのでしょうか。

麻薬のような原発景気はもうたくさんです。原発に命をあずけることは止めましょう。いま市民がやるべきことは、7月の再稼働阻止です。